

森繁久彌の 屋根の上のヴァイオリン弾き

HISAYA MORISHIGE IN FIDDLER ON THE ROOF



森繁久彌の屋根の上のヴァイオリン弾き

ブローグ・陽は昇り又沈むー開説・テーマー急持ちなら 伝説のうた 陽は昇り又沈むー開説・チャップリン 陽は昇り又沈む(演説)
陽は昇り又沈む 愛しているかい? 安息日の祈り 人生に死体 開説・アナデフカ 開説・エビローグ



森繁久彌の 屋根の上のヴァイオリン弾き

HISAYA MORISHIGE in FIDDLER ON THE ROOF

原作●ショラム・アレイハム *Sholom Aleichem*

作曲●ジェリー・ボック *Jerry Bock*

作詩●シェルドン・ハーニック *Sheldon Harnick*

構成●森繁久彌

訳詩●若谷和子

——滝弘太郎

編曲●岩代浩一

指揮●福森 湘

出演●森繁久彌

——淀かおる

——葵ひろ子

——ロイヤル・ナイツ 他

——佐藤陽子(ヴァイオリン)

——松木 優(ピアノ)

協力●出海企画

SIDE 1

1. プロローグ・陽は昇り又沈む～朗読 (3' 54')

Sunrise, Sunset

2. テーマ～金持ちなら (6' 19')

If I Were A Rich Man

3. 伝統のうた (3' 19')

Tradition

4. 朗読～愛する我家をはなれて～朗読～チャヴァよ (6' 58')

Far From The Home I Love~Chava Sequence

5. 陽は昇り又沈む(演奏) (4' 12')

Sunrise, Sunset

SIDE 2

1. 陽は昇り又沈む (5' 18')

Sunrise, Sunset

2. 愛しているかい? (3' 18')

Do You Love Me?

3. 安息日の祈り (2' 42')

Sabbath Prayer

4. 人生に乾杯 (3' 22')

To Life

5. 朗読～アナテフカ (3' 43')

Anatevka

6. 朗読～エビローグ (2' 34')

写真: 佐々木正和(文化工房).

プロローグ
陽は昇り又沈む

歌・森繁久彌

サンライズ サンセット
サンライズ サンセット……

いつもおんぶしてた
可愛い 小さな子
いつか大きくなった 二人
こんなに きれいになって
立派に なったのか
昨日までは 小さな子が
陽は昇り 又沈み
時うつる
よろこび 悲しみを
のせて流れゆく

〔語り〕

アナテフカ

それは ロシアの片田舎の村
かりそめの故郷とはいえ
かりそめの生き死の土ではなかった

じいさんの墓もあった
ばあさんの墓もあった
それは ここに生れ死んだ人たちの
墓の間にあった

その丘の上に
陽はのぼり
陽は沈み

喜びと悲しみをのせて
時は流れ 年はこともなく移り過ぎた

若者は結ばれ
歌い踊る

老人も手をくんで民族の昔を語る
神への感謝を その手やその足にのせて

金持ちなら

歌・森繁久彌

金持ちなら ダディダディダディダ
ディバビバディリディドゥン
朝から夜まで 遊んで暮らす
金持ちなら ダディダディダディダ
ディバビバディリディドゥン
呑気に暮らすのさ
ディリバビディリバビ ファン

町の真中にでんとした
でっかい家を見て
屋根は立派なトタン屋根
あり余るほどの部屋は
みごとに磨かれた
すばらしいお邸さ
庭にや鶏 七面鳥に
鶯鳥に アヒル
人目をひくように
ここはクワックワックワ
コケコッコ イヒヒーン……
やかましく鳴かせよう
ホッホッホー（溜息）

金持ちなら ダディダディダディダ
ディバビバディリディドゥン
朝から夜まで 遊んで暮らす
金持ちなら ダディダディダディダ
ディバビバディリディドゥン
呑気に暮らすのさ
ディリバビディリバビ ファン

俺の女房は みごとに
太った手を上げて
下男に指図する
歩く姿は 孔雀のように
しあわせそうな顔 ホホホ……
大金持ちの奥様さ

俺の意見を 誰もが求め
学者先生も 近所の人も
このテウイエの意見を聞く
金持ちとは すばらしい！
ディディディ……

横車を押しても ちっともかまわない
思うままに やるんだぜ
暇があるなら教会へ行つて
聖書と首つ引き
毎日 お祈りする
偉い学者と話し合つて一日暮らすのさ
これこそ すばらしい
ホッホッホー（溜息）

金持ちなら ダディダディダディダ
ディバビバディリディドゥン
朝から夜まで 遊んで暮らす
金持ちなら ダディダディダディダ
ディバビバディリディドゥン
今のさだめは 神様がきめられた
金持ちなら
若し!! 金持ちならは

伝統のうた

歌・森繁久彌 淀かおる 他全員

しきたり! しきたり!
しきたり! しきたり!
しきたり! しきたり!
しきたり! しきたり!

生活を一手に引きうけ
汗を流し 働いて
女房 仲間たちを
養うのは 誰?

それは パパ! しきたり!
それは パパ! しきたり!

みんなが休めるように
きれいで 静かな
家庭をこしらえるのは
誰でしょう? 誰でしょう?

それは ママ! しきたり!
それは ママ! しきたり!

三つで 字を読んで
十才で 商売
花嫁が きれいならいな
それは息子! しきたり!
それは息子! しきたり!

針仕事は お母さんに
お婿さんなら お父さんに!

それは娘! しきたり!
それは娘! しきたり!
(各グループの輪唱)

しきたり! しきたり!
しきたり! しきたり!
しきたり! しきたり!
しきたり! しきたり!

〔語り〕

じいさんも 父さんも 子供たちも
しきたりの中に生れ 育ち 結ばれ
神の元へ去った
しきたりは彼らの生業を守り
民族を守った

しきたりは 色濃くユダヤの民の血の
中に生きつづけたが
時の流れは このしきたりをも
風雪の中でうすれさせてゆくのか

娘は恋を知り
男を愛し 父にそむき 母に背を向けた
或る者は
住みなれた故郷のアナテフカをあとにし
て 遠い見知らぬ国に行く

愛する我家をはなれて

歌・葉ひろ子

愛する我家をはなれ
遠くへ行きたい
あたしの今の気持ちを
知ってほしいの
幸福だった私の あの日 あの時
みんなといつも暮した このふるさと
彼がこのあたしの
夢を変えてくれた
手をとって合せて 二人で生きるの
辛いけれど あたしは 家をはなれ
あの人だけを頼りに 旅に出るの
固い決意を胸に 彼のもとへ
遠いシベリアの果て
めざして行くわ
家をはなれ……

〔語り〕

父は哀しみ
母はだまり
村人はあきれはてた
けれども 娘たちは
しきたりをよそ目に
新しい世界を求めてゆく

チャヴァアよ

歌・森繁久彌 他全員

まぶた閉じれば
静かに浮かぶ思い出
楽しい昔
本当にあどけない
小鳥のような チャヴァア チャヴァア
いつも愛らしく
誰にもやさしいあの子
無邪気な いい子
すべては 夢のよう
かわいい 小ちなチャヴァア チャヴァア

陽は昇り又沈む

歌・森繁久彌 淀かおる 他全員

陽は昇り また沈み
時うつる
やがて朝がくれば
花も すぐひらく
いつもおんぶしてた
可愛い 小さな子
いつか大きくなった 二人
こんなになつたのか
立派になつたのか
昨日までは 小さな子が
陽は昇り また沈み
時うつる
やがて朝がくれば
花も すぐひらく
口には出して言えない
今日の よろこびよ
やさしく手をとって合せて
いつまでも
しあわせそうな 二人
固く 結ばれて
いつの日にか
わたしたちも
陽は昇り また沈み
時うつる
やがて朝がくれば
花も すぐひらく
陽は昇り また沈み
時うつる
よろこび 悲しみを
のせて流れゆく

愛しているかい？

歌・森繁久彌 淀かおる

ゴールデ！ 愛しているかい？
何だって！
いや わしをさ
あんなを……？
そりやおかしいわよ
疲れすぎだわ
家で横になつて寝なよ
きつと病氣さ
ゴールデ お前に聞いているんだよ

愛しているかい？ ゴールデ！
馬鹿つたれ！
でもさ何とかおいしいよ
愛しているかい？
あんなを……？
あんなの為に子供を生んで
食事に掃除 針仕事
一切合切 やつてきた
それなのに 今更 愛だなんて
ゴールデ！！
初めて会ったのは結婚式のとき
とても
恐かったよ
わたしも
でも そのうち必ず愛し合えると
親は言つた ゴールデ！！
愛しているかい？
女房だよ
いやー だからさ
愛しているかい？
どうかしら……
長い年月を一緒に
よろこびや 悲しみを
分け合つてきた二人の
これが 本当の 愛
愛しているかい？
愛してるわ
いやあ 愛してるよ わしも
今になって愛していると
気がつくのは いいもの

安息日の祈り

歌・森繁久彌 淀かおる 他全員

お恵みを 神様 娘らの上に
いつの日も 操は正しく
かがやけるエダヤの誇りとなるように
いつの日も 心には愛を
恵みをあたえよ
お祈りを聞き給えよ
恵みをあたえよ
娘をよき妻に 母に
お恵みを神様
お恵みを神様
しあわせと平和
今日の日の この祈りを
聞き給えよ
今日の日の この祈りを
聞き給えよ
アーメン

ヘイ!!
乾杯!!

アナテフカをあとに

歌・森繁久彌 淀かおる 他全員

去らねばならない このふるさと
見知らぬ土地へ
人はゆく 荷車はゆく
永く住みなれたアナテフカを後にして

何を残すのか
ただアナテフカ
アナテフカ アナテフカ
疲れ果てた アナテフカ
あの日 あの時よ
アナテフカ アナテフカ
誰も みんな アナテフカ
なつかしい友よ
やがて見知らぬ土地へと
友を求めてゆく
おお アナテフカ
みんなのアナテフカ
今は さみしいアナテフカ
なつかしの ふるさとよ

見なれた丘も 森も 牧場も 我家も
すべては そのままだ

悲しきまでに
牛は泣きもどめ
大は吠えなて
後を追つたが
しかし 誰も
とめるものはないのだ
一本の道は細く 余りにも遠い
その道は いずれは別れ別れになり
名も知らぬ土地へ
つながつてゆくのだらう

人はゆく
車はゆく
アナテフカをあとに

森繁久彌作

これらしきたりは極めて細部に渡っており、生活信条から、食事のとりかた、着物の着かた、眠りかたにまで渡っている。

このしきたりの中に何とも見事な人間愛を感じさせ、教えてくれるのである。

タルムード
それはユダヤ教であり
生活のしるしであり
それは又、しきたりである
神と人を結び、生への讃歌でもあろうか
その二百五十万字の中から、珠玉のような
数々の教えを知るのだ
ユダヤ人が安息日を守って来たよりも
安息日がユダヤ人を守って来た、と
あいまいな友であるよりも
はっきりした敵であれ、と教えた
幸運に頼っているだけではいけない
虫は果物が腐ってからでなければ
中に入らない

酒が入ると　秘密が出てゆく
魚はいつも口で針にひっかかる
人間もやはり口で　ひっかかる
毎日　今日があなたの最後の日だと思え
毎日　今日があなたの最初の日だと思え
と、ユダヤ人の格言は　ユダヤ人達を
教えみちびいたのだ
あなたは手伝わなくても
太陽は自分で　沈んでいく

（この中で一部、実業の日本社刊「ユタヤ格言集」―ラビ、マービン・トケイヤー編著 助川明訳―より引用致しました）

レコードから無断でテープその他に録音することは法律で禁じられています。

東芝EMI株式会社 MADE IN JAPAN